

## 新潟県 JA北新潟 (旧JAにいがた岩船)

農業者の所得増大・農業生産の拡大

### 米農家への指導がより迅速に

### 全国初 JAで栽培管理支援システム「ザルビオ」を導入

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する3つの「シンカ」

自己改革 実践中!



## 担い手農家の「これはいい」の声がきっかけ

新潟県北部のJA北新潟は、旧JAにいがた岩船地区で栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」を導入・運用し、組合員の営農指導に役立っています。同地区で2023年度に初導入したもので、このシステムは人工衛星で撮影した水田の画像や、品種の生育データ、気象情報などを人工知能(AI)が自動解析することで、水稻の生育状況をパソコンやタブレット端末で確認できます。

JA組合員からのニーズもあり、営農指導に活かすため、JA全農にいがたに相談し、導入しました。担い手や農業生産法人などの規模拡大などでJAとの関係性が希薄にならないようサービスの向上や、営農指導員の人手不足で稲作指導員の育成が急務だったのが背景にありました。



「ザルビオ」の圃場マップ



点の指導から



面で捉える指導



## 2023年の猛暑も1等比率70%以上

導入して良かった点は、事務所のパソコンや、外出先のタブレットで、ほ場ごとに生育マップや地力マップが確認できることです。また、水稻の生育ステージを予測する機能により、中干しや病害虫の防除時期や追肥の時期などの目安が分かるようになり、圃場に出向かなくても生産者と電話対応で生育の指導ができるようになりました。生育予測に基づいて、ある組合員に実証指導したところ、2023年の異常な高温でも1等米比率が70%以上を超えました。



「ザルビオ」を活用した営農指導の様子

## より精度の高い営農指導へ

今後は「ザルビオ」による営農指導を希望する組合員に対し、サービスを提供していきます。これまで以上に稲の生育状況をより正確に把握するために、地上でも水稻の生育を測定し、「ザルビオ」の人工衛星のデータと照合。数値がずれていれば補正するなど対応しています。「ザルビオ」はよりの確で素早い営農指導による増収や品質の向上が見込めるだけでなく、担い手との関係性構築などにも活用が期待できます。



導入の様子

### 組合員の声



今までは水稻の生育を点でしかみられなかったが、水田全体の面としてみられるのは非常にいい。



「ザルビオ」の地力マップを利用した可変施肥を行った結果、生育ムラが解消されることが分かった。



営農指導員がザルビオの知識を持つことは必要不可欠。

問い合わせ JA全中 JA組織・経営対策部 JA改革支援課 ☎03-6665-6040 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/JA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。